

第66次 教育研究福井県集会のご案内

テーマ「響心」

～響かせよう心に、響き合おう心で～

総括報告

2016年11月5日(土)、学びの里「めいりん」と有終西小学校、開成中学校を会場として、第66次教育研究福井県集会が開催されました。組合員、保護者、退職組合員等約700名が県内各地より参加しました。

全体会では、県教組竹野亨執行委員長が、第1回教育研究大会の様子や本集会の目的や意義についてふれながら挨拶させていただいた後、大野市教育長の松田公二様より激励の言葉をいただきました。その後の全体講演会では「役割で子どもは育つ」をテーマに山崎清治さんが、ゲームを交えつつお話されました。笑いあり感動ありの90分間の中で、参加者は楽しみながら子どもの心の扉を開く「共感」の大切さを学びました。

午後の12の分科会では、専門職豊かな講師の方々による、ワークショップを中心とした参加型の会が開催され、教職員としての資質向上を図りました。



編集・発行所
福井県教職員組合
福井市大手2丁目22-28
TEL 23-1887
郵便番号 910-8544
定価70円(郵送料共)
毎購読料(含組合費)

大和印刷所

第66次 教研特集 (全組合員配布)



委員長挨拶

教育研究集会は第六十六次をむかえます。県教組二十年史をひもといてみますと、一九五一年十一月二日鯖江市神明小学校で行われた第一回の教育研究大会(当時は集会ではなく、大会と呼んでいました)について「『基礎学力の低下実態とその対策をいかにするか』など、十一のテーマで、発表者の研究を中心にして討議がなされた。ほとんど個人研究の形で、十分な準備もない中で開かれた研究大会であったが、県下の教師が共通の問題について、自主的な機関をもって討議したことはこれが初めてであった。そして、討議のなかからでてくる新しいエネルギーがまた、組合運動の前進に結びつく力でもあった」と記されています。戦災・震災後の不十分な環境のなかで、新学制実施後の教育問題を、教組の組合運動を推進するために直面した課

題ととらえ、第一回の教育研究大会が行われたのです。

道徳が二〇一八年度「特別の教科道徳」になります。従来の「読み物」道徳から問題解決的な学習や体験的な学習をすることで「考え、議論する」道徳への転換が求められています。また、アクティブラーニングにおいては「主体的に学ぶ」ことへの転換が求められます。教職員一丸となって、子どもたちの主体的な学習を実現させるために、何を体験させるか、体験させたことをもとに何を考えさせるか、どう考えさせるかといった点について研究が進められています。多忙な中、子どもたちの力を伸ばしたいという一心で、教材研究に向かう姿に頭が下がるばかりです。

私はこれまで中学校で数学の授業を行ってきました。いつも、数学の楽しさとは何かということを追求してきました。問題に対して答えが出たかどうか、答えが正解かどうかだけではなく、課題を解決していく過程で、これまでに学んだことから根拠として、どのように考え問題を解決にいたったか、その考えていく過程に数学の楽しさがあると考えていました。そして考えていく過程で他者と共有したり、共感したり、時には対立しながら意見交換ができる

と、数学の授業が楽しくなつてくるとも考えています。数学を苦手としている生徒が考えた意見に対してグループや教室の中で「その考え、おもしろい！」と友達から言われたら、数学が苦手な生徒も数学の授業が楽しくなると思います。また、意見を発表した時、教室全体から「おー」という感嘆の声があがった時、課題をみんなで解決したという実感がもてると思います。数学の授業は楽しいものです。数学の授業の中で、心に響く瞬間がきつとあるはずだと思っています。

今回、大野市において『響心』響かせよう心に、響き合おう心で』のテーマのもと、第六十六次福井県教育研究集会を開催させていただきました。教職員やPTAなど、多くの方々のお力をいただいで創りあげている自主的な研究の場である本集会において、多くの参加者の皆さんが教育への思いを語り合い共感し合うことで、明日の実践につながっていくことを心より願っております。子どもたちに学びの楽しさを味わってほしい、そのためにはどうしていくとよいのか、本研究集会がその解決への一助になることを祈念しています。



心に残る言葉がいっぱい！

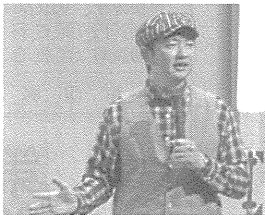
満足度 97%

アンケート結果より
(満足・だいたい満足)

全体講演会

「役割で子どもは育つ」

【講師】 やまざき 山崎 せいじ 清治 さん (NPO法人 生涯学習サポート兵庫理事長)



講堂中に響き渡る参加者の笑い声。参加者は序盤から山崎さんの話に夢中になっていきました。最初は隣の人との簡単なゲームからでした。まずはジャンケン。単純な遊びなのにちょっとひねるだけで相手の心を開けることを教わりました。「子どもに心を開いてほしいなら、自分が開かないとだめ。」「相手一人ひとりの違いを認めながら接することで共感が生まれる。」ジョークと体験をもって語られる1つ1つの言葉に思わずうなずいてしまいます。

簡単なゲームを通して、共感することの大切さを教えてもらいました。



「先生、昼休みグラウンドで遊ぼう！」「エー、また今度ね」普段使っていませんか。「オー、でもまた今度ね」って一言変えるだけで、子どもたちは先生に受け入れてもらったと感ずることが出来ます。「あたりまえ」の反対は「ありがとう」。普段の使い方をあたりまえでないととらえることで、感謝の気持ちがあがります。そんな1つ1つの語りかけに、普通の学校生活と照らし合わせて考えさせられました。

最後に山崎さんが子どもたちと無人島でキャンプを行った映像を見せてくれました。親と遠く離れた土地で子どもたちが葛藤しながら成長していく様子が会場中が感動の渦に包まれました。昨年度同様、心に響く講演に盛大な拍手が送られました。

参加者の感想

- とても興味深く、内容のつまったお話でした。相手との違いに気付くことが思いやりのスタート、あたり前を減らすことが大切など、私自身のこれからの生活に大きな影響がある言葉がたくさんみつけれました。
- 一方的に聴くだけでなく、色々な「遊び」や「行動」を通して気付かせていただき、お話がスッと入ってきました。子どもとの普通のやりとりで改善できる「エー」と「オー」の違いが分かりやすく、勉強になりました。
- とても楽しい講演で、学級づくりを生かせることをたくさん教えていただきました。すぐに学校でやってみたいと思います。笑顔で、子どもたちに「ありがとう」の言葉を言おうと思いました。
- 普通の生活から「共感」というワードを大切に、これからの人生を考えていきたいです。山崎先生のお話を聴いて、子どもたちの無限の可能性を引き出すのは、おとなの大切な役目だと思いました。

子どもたちへ
組合員へ

集会の学びを広げましょう

来てよかった!
楽しかった!

運営委員の方々が、毎年6月下旬から講師選定や研修内容の検討など準備に取り組んでくださいました。今年も参加体験型（ワークショップ）を念頭にした分かりやすい研修が行われました。参加者からは「大変ためになる研修だった。」「学校現場で役に立てたい。」等の感想が多く寄せられ、満足度も大変高かったことがうかがえました。教職員自らがつくる資質向上のための研究集会で学んだことをぜひ広めましょう。

各分科会研修内容

第1分科会 環境・平和教育

「原水禁長崎大会」から学んだこと
「東日本大震災」当時の状況と現在の課題

前半は、青年部5名による原水禁世界大会長崎大会で経験し学んだことについて報告を行った。報告は被災者本人の体験談やツアーに参加して学んだこと、長崎という町に立って感じたこと、原発・エネルギー問題など多岐にわたった。戦争について今一度考えるよい機会になった。後半は福島県教職員組合の副執行委員長をお招きして、原子力発電所の事故が起こった当時の話と、現在の課題について学んだ。ニュースでの報道とは違った当時の報道の問題や避難場所の課題など、現地の様子を聞くことができた。



第2分科会 人権・共生教育

特別は自然に無意識に
〜人に悩み人を慕い人を支えに〜

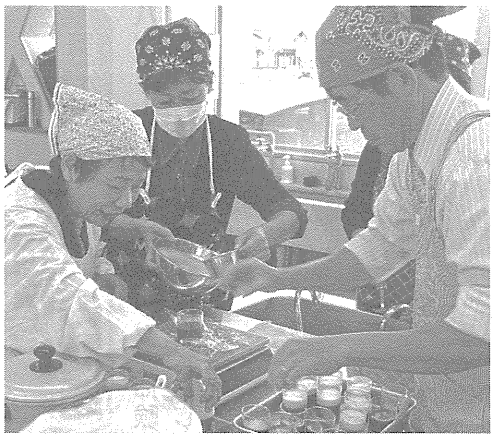


講演では、保護者の立場、教師の立場の両方から見た息子さんの成長過程での取り組みを話していただいた。息子さんの成長過程や変容、支援の工夫を、中学時代の文化祭での演奏発表の映像や写真を使って具体的に教えていただいた。その後、グループトークで現場の現状を踏まえた意見交換を行った。「保護者の立場からの話はなかなか聞けないことなので貴重な時間だった。」「保護者も悩んでおられることを念頭において連携していかなければいけない。」「『親と子』『親と学校』との関係性について深く考えさせられた。」等の感想が寄せられた。

第3分科会 PTA・地域住民との連携

地域の良さを取り入れた教育活動の実践
〜地域の達人を招いて〜

第1部では、「シヨコラ de ようかん」づくり体験をした。途中、大野市内の同業者で取り組んでいる新作発表の予定話なども聞きながら楽しく作業をした。第2部では、野村醤油株式会社を訪ね、醤油づくりの話や醤油の瓶詰め体験をした。醤油工場独特のにおいに包まれながら体験だったことやお土産に生醤油を持ち帰ることができ、とてもうれしそうな様子だった。参加者からは「地域連携は、地域の身近な大人の活躍が見られ、ふるさとの良さを改めて感じることができるので、やはり大切だと感じた。」等の感想があった。



第4分会 教育条件整備と学校財政

遠隔授業・研修システムを使って多忙化解消！
経費節約！

「遠隔授業・研修システム整備事業」についての研修会を行った。学校間での交流学习の中で学習成果を発信したり、聞く相手を意識した発表をしたりする様子をビデオで視聴した。その後、機器のつなぎ方、システムの起動方法、ビデオ通話の方法、3者以上で結ぶ方法、デスクトップの画面やプログラム等を共有する方法、トラブルへの対処方法を学んだ。そして、参加者全員がシステムを起動して、有終西小学校中学年室と有終南小学校パソコンルームを結ぶ操作の実習をすることができた。



第5分会 健康教育

疲れを癒やすアロマの実習とお話



講義では、西洋医学と東洋医学の考え方の違いや生活習慣を変えて漢方を使うと認知症に良く効くことなど、漢方について学習した。実習ではアロマの歴史を教えていただき、「かぜ予防」や「リラククス」に効果のあるアロマスプレー作りを行った。6種類の精油の中から好みの精油を選び、それを混ぜてスプレーを作成した。特にオレンジ・スイート（空気洗浄・防臭作用効果あり）やリトセア（気分を落ち着かせる効果あり）に人気があった。会場中にアロマのにおいが広がり、グループ毎に楽しく作成することができた。

第6分会 食教育

しあわせ元氣なふくいっ子を育てる食育
～食育の祖・石塚左玄の訓えを学び味わおう～

前半は、現代の食を取り巻く課題と石塚左玄の訓えを照らし合わせながらご講義をいただいた。100年以上も前に提唱された石塚左玄の訓えは、現代の食への警鐘でもあることを学び、参加者一同考えさせられた。後半は「一物全体食」の考え方をいかした調理実習を行った。野菜は生長点を含めて調理したり皮なども含めて食べたりすることで、栄養をあますことなくいただくことができることを学んだ。今まで捨てていた部分を調理に使うことで新たな視点での調理体験ができた。時間をかけて丁寧に調理をして、食を大切にしたいと感じた。



第7分会 教育相談と心の問題

ハッピートークトレーニングを体験
ことばが人格に与える影響の大きさに気づき、正しいことばの使い方を身につけ、心の健康を維持する力を養う。



「一番上の引き出しにはよく使うものがしまわれている。一番上の引き出しによい言葉を入れて、ネガティブな言葉は使わずに、下の引き出しに落としていく。」考えている以上に言葉がメンタリテイに与える影響は大きく、各自の精神生活を健全なものに保つていくためには、ポジティブな言葉遣いを心がけることが肝要であるという話に参加者全員は納得の表情だった。参加者からは「プラスの言葉を出していくと、周りだけでなく自分も変わっていくと感じた。」等の感想があった。

第8分科会

特別支援教育

医療から見た特別支援教育

～発達障がいを正しく理解しよう～

前半は「発達障がいとは何か？発達障がいの原因、診断の流れ、治療法、対応のポイント等の基本的な知識」について医療的な視点からの講演を聞いた。参加者は時にうなずいて熱心にメモをとりながら聞き、発達障がいの子どもたちへの対応に関する基本を再確認していた。後半は、本人の立場に立って特性に応じて考えることを踏まえながら、実際に教室や家庭でどのように対応すべきかについてグループに分かれて討論を行った。グループ毎の発表を行った後には講師からの講評もあり、具体的な対応方法を考えるよい機会となった。

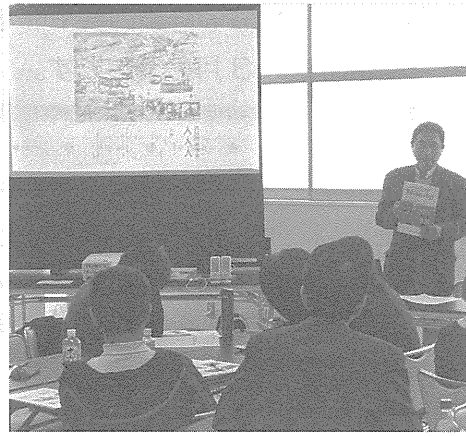


第9分科会

教科(総合・生活)

ふるさと教育のすすめ方教えます

～地域の自然環境をいかして～



3人の講師による「南六呂師の絶滅した植物について」「学校現場における環境教育の実践 ―今、子どもたちに伝えるべきことを、どのようにして伝えるのか―」「ふるさと教育」の実践」をテーマとした講演やワークショップは、どれもとても興味深いものだった。参加者からは「教育現場で注目されている『ふるさと教育』について、原点は身のまわり、足元にある自然環境から始めることが大切だとわかりました。」「自分が日々の授業（ふるさと教育）で悩んでいたことについての解決のヒントを得られ、大変有意義であった。」といった感想があった。

第10分科会

教科(保健体育)

楽しくおどろう！ダンス！ダンス！

「楽しくおどろう！ダンス！ダンス！

スー」というテーマのもと、ダンスの基本的な動きを学び、それを活用して創作ダンスにして発表する活動を行った。講師の先生は、中学生にも指導されている方で、基本的なステップから音楽に合わせての本格的なステップまで、幅広く教えてもらうことができた。初めは苦手意識をもっていた参加者も徐々になれ、ステップをマスターしていった。楽しい雰囲気の中、普段なかなか体験することのない本格的なヒップホップダンスを満喫し、とても有意義な活動になったという声が多く聞かれた。



第11分科会

今日的課題研修

ネットトラブルから子どもたちを守るためにできること



福井県警察本部から講師を迎え、前半はコミュニケーションサイトの実態や実際におこった事例を紹介していただいた。コミュニケーションサイトの実態について知らなかったことも多く、参加者はメモをとりながら真剣な様子で話を聞いていた。後半は、ネット利用を学習する際のアプリを体験したり、ネットいじめやネット依存についてグループ討議を行ったりした。グループ協議では、ルール作りをする人やネットについての知識を大人が知ることが必要等の意見が出された。

第12分会
分科母と
女性教職員の会

保護者と教職員が手をつなぎ、子ども達の幸せな未来のために「今何をすべきか」共に考え、行動しましょう。

前半は、大野・吉田・越前・小浜の4支部から保護者と教職員が「手をつなぎ」発表がされた。後半は、それをもとにグループ討議を行った。「発表がすばらしく、いろいろな地域・学校の取り組みを知る貴重な機会になった。」という感想や「学校は教科の勉強ばかりではなく、いろいろな切り口から子どもたちのことを考えて教育に生かす努力をしていることを知り、感謝をしたい。」という保護者の意見があった。教職員と保護者が少人数グループで気軽に意見交換をして、二者がつながることの大切さを感じることができた。

